

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570100681		
法人名	特定非営利活動法人シルバーの森夕照苑		
事業所名	グループホーム シルバーの森夕照苑		
所在地	大津市秋葉台6番33号		
自己評価作成日	平成26年10月22日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成26年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

三食共手作り季節メニューや利用者の好きなおかず、希望や体調に合わせたメニューを豊富な食材を使用し一日30品目を取れるよう食材に気を使い栄養のバランスを考えている。また、開設以来、少しでも安眠につながればと思い、夕食後に全員の足湯をおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「私らしく穏やかに暮らす」と謳う理念には、その地域に溶け込んで毎日を過ごすという思いが込められ、職員は、入居者、地域住民とともに毎日を送っている。協力医の毎週の往診、訪問看護師の来訪による医療支援、近隣住民の協力を受けている避難体制等、入居者の健康と安全の確保に努力している。管理者と職員の意思の疎通がよく、互いの協力により円滑な勤務体制を創出し運用しているチームワークの良さが有り、いきいきと入居者を支援している。入居者は、職員の気持ちを込めた手作り料理を楽しみ、就寝前の足湯で心地よく入眠している。現在は居室が1階と2階に分散し、食事毎に階段を使わなければならない手狭な感じがあるが、来年5月に施設を拡充して隣接自治会地域に移転する事になっており、その準備も着実に進行している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんのケアのことで悩むと、理念である原点に戻り「私らしく穏やかに暮らす」ということを、スタッフたちと考えている	日頃の支援の中で課題が発生した時、職員は常に理念に立ち帰って考え、話し合っ入居者に対応している。毎月の全体会議でも確認し合い、共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に利用者さんに参加していただくよう努力している(カラオケ教室) また、毎月発行している夕照苑だよりを自治会の回覧に入れてもらっている	自治会に参加し、家族の承認を得て、事業所だよりを自治会内に回覧し、催しの案内もしている。毎週花の管理のために来訪するボランティアがいる。畳敷きの自治会館での催しに、椅子で参加できる配慮を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会内を散歩したり、受診時などに、認知症の方が穏やかにされている様子などを見ていただき、地域の方にグループホームの存在を知ってもらっている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	困ったことが発生したとき、推進会議で相談し沢山の意見をもらっている また、2ヶ月に一回必ず会議をおこない、その時々で貴重な意見を聴き、議事録にはすべて記録し、議事録はスタッフに回覧しサインをもらっている	隔月開催の会議には、自治会長、民生委員、包括支援センター、近隣の行政書士、家族が参加している。難しい介護を要する入居者の対応を相談したり、外部評価結果の報告と目標達成計画への助言があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	よりよいグループホームを目指すため何事においても、大津市介護保険課に相談し、移転先も決まり認可をいただいた 利用者さんの事故や難しい問題点などがあれば、指導してもらっている	介護保険課には出向いて面談し、移転先の土地取得に関して指導を受けた。包括支援センターとは困難事例の相談や、入居権利金の扱いなどを相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことが前提であり、職員には研修などに参加させている。また、二点柵に絶対ならないことが大事であり、玄関には家族の希望でセンサーを取り付け、鍵を掛けずいつも開放的にしている 外に出られたがる時は、無理矢理苑内に戻さず散歩するなどに付き添い、一巡するようにしている	職員全員が身体拘束をしない意識を強く持ち続け、実践している。玄関センサーも使って見守りに勤め、夜勤体制の時に限り玄関を施錠する。無断外出の時、近隣からの連絡体制もできている。事業所への帰宅も、入居者を納得出来るように誘導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が虐待しないよう伝えても理解が難しく「そんなことわかっている」と職員の言葉が出るが、虐待をしていいのか 悪いのか判断に悩むケースが多く、「自分にされて嫌なことはやめましょう」と単純な言葉で指導している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、苑内で成年後見制度を利用されている方は、親族が保佐人となり、月1回のスタッフ会議において、その人らしい権利が守られるように話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に一つ一つ丁寧に説明し、家族に理解してもらい、同意をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会はないが、意見箱を事務所横に設置したり、家族来訪時に直接たずねるなど、家族からの意見は貴重であり、その意見をひもときサービス改善につなげている。苦情の申立については、公的機関としての窓口案内を重要事項説明時におこなっている。家族の方へ、毎月末届けるお手紙に「面会にきてくださるのを待っておられます」と添えている	運営推進会議に出席する家族の発言や、日頃来訪するときに交わす言葉から意見を聞いている。献立表を公開して欲しいという希望には、即刻廊下に掲出し、家族が訪問した時の面接場所の確保が難しいときは、居室に案内している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回定期的に職員全員で会議をおこない、意見が出る都度改善に努力し、管理者に意見が言いやすい雰囲気作りをしている。また、勤務体制は職員の希望を出来る限りかなえている	毎月全員参加の職員会議を開催し、新入家族も出席して内容を共有している。随時職員からの提案は試行し採否を決定している。入居者の習慣に従って衣類置き場を決めたり、下駄箱を踏台代わりにしない位置に変えた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も積極的に介護現場に入り、職員と同様の仕事をおこない、職員に残業をさせないことや介護以外でも料理や薬の管理を任せ一人一人に責任を持たせるなど、職場の雰囲気作りにも努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市主催の外部研修に参加させ、苑内では接遇や薬(認知症の薬)の管理、防火訓練など実施している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所として淡海グループホーム連絡協議会に加盟し、現在他施設との交流をおこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	フェイスシートの内容を熟知し、利用者さんとコミュニケーションをとることで、少しずつ距離を縮め「私のことをこんなに知っていてくれる」という安心や信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初からあれもこれも聞き出すことは無理なので、毎日少しずつ語りかけることで理解してもらえるよう努力している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	フェイスシートを熟知し、家族と話し合っている中で、ヒントを得られることがあり支援につなげることができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来ることはしてもらい、この仕事は私の役割と思ってもらい、生きていく喜びに結びつけ、手伝ってもらったことは、必ず「ありがとう」と一言お礼の言葉をかけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、夕照苑だよりや近江報告を送付し苑での生活の様子を知っていただき、行事や記念日に家族とのふれあいの場を持ってもらえるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	フェイスシートに基づき、生活歴や交友関係などコミュニケーションをとることで、愛用の品物やアルバムを持ってこられて、娘や孫の結婚式などの写真を見たりして利用者さんとスタッフと共有している	フェイスシートは、独自の書式とセンター方式を併用している。入居者の高齢化に伴い友人の来訪は減ったが、若い頃の友人が尋ねて来ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの日々の様子を観察し、人間関係が円満に過ごせるよう職員同士が情報を共有し、席を変えるなど必要な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院へ入院時は、お見舞いに行ったり、近くへいったときは、どうぞすがと尋ねたりする		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを聞いて、できる限り本人の希望がかなうよう努め、その人に合わせるよう寄り添った支援をしている	新規入居者家族もケア会議に参加し、入居者の思いを共有すると共に、日頃の会話の中から汲み取っている。コーヒー好き等嗜好の傾向、家族との外食、一度家に帰りたいという希望の受入など、寄り添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴を聞き取り利用者さんを知るにより、職員全員が情報を共有する		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの心身状態に応じた内容で、家事仕事に参加してもらい能力維持に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議に家族もできる限り参加してもらい、細かな情報を得ている また、薬剤師の参加によりせんもんてきな意見も得られる	全職員が毎月のモニタリングに参加し、3ヶ月ごとに介護計画を見なおし、変化がある時には随時計画を見なおして、その都度家族の同意と承認を得ている。新規入居者の家族は、最初の会議に参加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、3ヶ月毎に会議を開き、意見を出し合いプランの見直しをしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者さんのニーズに基づき、マッサージ士を導入したり、ボランティアによる体操教室や演奏会を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に運営推進会議に参加してもらい、現状を報告し、アドバイスをもらっている また、近隣よりボランティアで紙芝居や演奏会を定期的を開催してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医師の診察を希望される場合は、月4回受診してもらい、必要に応じて地域の中核病院と連携し対応している また、掛かり付け医師を希望される場合は家族の付き添いのもと受診してもらっている	毎週、協力医の往診診療を定期的を受診し、急変時には状況により職員が付き添って受診支援を行い、診療結果を共有している。かかりつけ医を希望する1名は、家族の支援で受診し、結果を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4～5回訪問看護師による診察を実施しているその際、情報交換をし適切なアドバイスを受けることができる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の中核病院に入院してもらい、家族や医師、看護師と情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	9月から医療連携を開始し、家族から同意を得、週1回訪問看護師に来てもらい利用者さんの様子を見てもらっている	包括支援センターの助言と家族の希望で、本年9月に医療連携加算体制を導入した。全入居者家族に順次、重度化と看取りに関する指針、重度化時の対応希望の確認、急変時の対応に関する事前意見確認等を文書化し、同意書を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に防火訓練や救急救命の講習を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害が発生した場合、近隣住民に協力依頼している また、当苑の職員は消火器の取扱、避難誘導、火災警報装置を作動させての訓練を実施している	災害発生時の近隣の支援体制は確立している。近隣の参加のもとで、年間2回、内1回は夜間想定避難訓練も実施している。避難マニュアルも整え、AED、飲料水、缶詰パン、おむつ等の備蓄も有る。手狭な構造に由来して、避難経路に課題が残っている。	避難経路の維持確保に努めて欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報を利用者さんや家族、来訪者等の目にふれない場所に厳重に保管している また、職員は接遇や個人情報の保護に関する研修を受講し、利用者さんの性格を把握し、言葉使いに配慮している	全体会議や日頃の入居者との接遇の中で、職員は互いに入居者に対する言葉かけに気を配り、家族的な和やかな会話が交わされている。個人情報は、施錠できる事務室内で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いを引き出すために、歌声広場の歌詞を見ながら歌を歌ったり、紙芝居をしたり、カルタ取りをすることでその人の性格を見つけ出している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日穏やかに過ごしてもらうために利用者さん皆さんが大好きな懐かしのメロディーを歌ったり、紙芝居やボール投げなど楽しく会話しながら暮らしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月毎に訪問美容室でのカットやこまめに手足の爪切りを行い、起床後、その日にあった服装を着てもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員全員が順番に料理にあたり、メニュー、調理、色彩等工夫しながら作っている 利用者さんのテーブルに職員が入り、食べ方や早さなども注意している	栄養士資格を持つ協力医夫人の指導を得て、入居者が希望する献立を職員が輪番で作し、職員も共に同じ献立を会話を交えて楽しんでいる。下膳を手伝う入居者もいる。誕生日には家族を呼びケーキも出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	常にコップはテーブルの利用者さんの前に置き、そのときの季節やお天気に応じて水分不足のないようこまめに注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夜、全員の義歯を職員が洗浄、消毒して預かっている 義歯でない方は、食後に歯磨きを丁寧にしてもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護が必要な利用者さんの排泄は、時間をみて声かけしたうせトイレへ誘導し見守りながら済ませてもらうよう注意している	パットを利用しているが、1人の入居者を除いて全員が自立排泄ができています。排泄パターンの把握、排泄時間の記録など、見守りの気遣いが行き届いている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一定の時間にトイレに座ってもらったり、水分補給、時計回りで腹部のマッサージ、適度な運動を行うようにしている 食事では、食物繊維を摂取できるよう心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は、全員隔日に入浴してもらうようにしている その日の利用者さんの健康状態に応じて入浴してもらい、希望される方は必ず入浴してもらえるよう、また、拒否される場合は2～3日に1回程度になる	週2～3回の入浴で、午前中の希望する時間に入浴を終えている。全員が、見守り、あるいは1人介助で入浴している。中には強い入浴忌避者もあるが、身体を清潔に保つため清拭などで対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後、足浴をおこなうことにより、安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服用薬は、担当職員が管理している また、睡眠導入剤が必要な方は、時間を決めて服用してもらっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を発揮してもらうための場面作りをしている また、一般住民と一緒にカラオケ教室に参加している方もいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の前が公園なので、散歩にでかけた後、四季折々を楽しんでもらうため、お花見、紅葉狩りなどに出かけ、お誕生日には、家族と食事をしてもらい楽しんでもらっている	各人の希望に従い、事業所前の公園に散歩に出かけている。入居者の体力を考えあわせ、方法や頻度の調整をしている。四季を感じさせる花見など外出には家族も参加することがある。ボランティアの支援でラジオ体操をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、現金を預かることはしていないが、買い物などに行きたがる利用者さんがいる場合、職員が付き添い対応している 家族とすぐに連絡が取れるよう自室に携帯電話を置かれたり、お弟子さんから絵はがきが届くこともある また、年末には年賀状を書く人もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在の利用者さんは、記憶を維持することが難しいため、自ら積極的に電話をされたり、手紙を書かれることはないが、年末には、家族宛の年賀状を作成してもらっている お友達や親族、お弟子さんから季節ごと絵手紙送られてくる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる花を限ったり、共用部分は常に清掃を行い、窓から見える茶臼山の四季の変化を利用者さんと楽しんでいる	2階の居間件食堂は明るく、台所と接しているので見守りがしやすい。向かいの公園が広い窓から見えるので、季節を感じ取れる。大きなテーブルを囲んで夫々ゆったり時を過ごしている。浴室、トイレの清掃も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時には利用者さん同士で言い合いになることがあるが、臨機応変に職員が入りコミュニケーションをはかっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族からの写真や手紙を壁に飾り、自宅で使用していた家具などを置き、ゆったりと過ごせるよう努めている	全室フローリングで、エアコン、ベッド、タンスは備え付けで、机や椅子など、自分の馴染みの品を持ち込み、家族写真や、自分の作品を飾り付け、自分好みの部屋づくりをしている。各部屋は良く整理されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足が不自由な人には車椅子や杖を利用してもらい自分でできるよう補助可能な距離を保ちながら見守りサポートをしている		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	非常口はあるものの、火災など、万一来に備え、避難経路確保する。	避難経路の確保	来年移転することで解決できる。	6ヶ月
2	6	当苑の場合、頻繁に訪問して下さる利用者家族もありますが、年に1~2回というご家族もあるため、利用者、家族の交流が少ない。	家族との交流	従来は、苑の行事を平日に行っていましたが、利用者家族が参加しやすいよう、土日に開催する。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。